

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

8月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.234 2026.8

紹介内容（7/1～7/31）

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 気仙沼農改：令和8年度気仙沼地区農業士会総会及び研修会が開催されました
 - 仙 台農改：「農産物の魅せ方・デザイン講座」を開催しました！
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 登 米農改：東和町内ノ目地区で加工用トマトの現地検討会が行われました
 - 登 米農改：みやぎ農業未来塾 ～高校生に農業現場を知ってもらおう～を開催！
 - 石 巻農改：石巻地区4Hクラブ連絡協議会視察研修が開催されました
 - 大 崎農改：大崎農業士会第1回研修会
 - 大 崎農改：大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会第45回通常総会開催
 - 登 米農改：東和町内ノ目地区の法人設立発起人会を対象に、専門家による現地相談会が開催されました
 - 登 米農改：東和町内ノ目地区で農地集約化に向けた住民説明会が開催されました
 - 栗 原農改：認定新規就農者サポートチーム巡回を行いました！
 - 栗 原農改：令和8年度栗原市農村女性のつどいを開催しました！
 - 石 巻農改：令和8年度東松島市認定農業者連絡協議会通常総会が開催されました
 - 大河原農改：令和8年度仙南農業士会研修会が開催されました
 - 石 巻農改：石巻地域生活研究グループの視察研修会が開催されました
 - 石 巻農改：女性農業者がスキルアップ活動としてリースづくりを行いました
 - 石 巻農改：石巻西高校地域探究活動に係るワークショップが開催されました
- ③ 先端技術等の推進・普及による園芸産地の育成・強化・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 大河原農改：スマート農業・省力化に向けて！農事組合法人葉坂希望の郷で勉強会を開催しました
 - 石 巻農改：ドローンによる可変施肥技術実演会が開催されました
 - 大 崎農改：色麻町にてスマート農業技術（農業用ドローン）研修会を開催しました
- ④ 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 登 米農改：県内初！畜産分野でみどり認定証交付
 - 気仙沼農改：「田んぼの生き物観察会」が開催されました
- ⑤ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 登 米農改：「もっこりにら」現地検討会が開催されました
 - 石 巻農改：J A いしのまき長葱部会現地検討会が行われました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/sosHiki/nosin/gennba1.Html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://ameblo.jp/miyagifukyu/entrylist.Html>

- 仙 台農改：ＪＡ新みやぎあさひなねぎ部会栽培講習会及び現地検討会が開催されました！
- 仙 台農改：ぶどう摘粒講習会～ＪＡ新みやぎあさひなぶどう部会～
- 大河原農改：角田市で宮城県なし現地検討会が開催されました
- 亘 理農改：亘理・山元いちご新規就農者向け「いちごの部屋」を開催しました！
- 亘 理農改：若手りんご生産者現地検討会を開催しました
- 気仙沼農改：令和８年度第２回南三陸ぶどう栽培研修会を開催しました
- 大 崎農改：古川なすの現地検討会と中間実績検討会が開催されました
- 石 巻農改：トマトの高温対策及び病害虫防除に関する情報交換会を開催しました
- 栗 原農改：栗原市内でズッキーニ抑制栽培講習会が開催されました！
- 大 崎農改：令和８年度加美郡りんご協議会現地検討会
- 仙 台農改：トルコギキョウ現地検討会開催～ＪＡ仙台トルコギキョウ生産組合～
- 仙 台農改：ＪＡ仙台根白石果樹生産組合りんご現地検討会
- 石 巻農改：オリーブ巡回指導が実施されました
- 仙 台農改：「令和８年産いちご出荷反省会」が開催されました

⑥ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 大 崎農改：第１回直播栽培研究会現地検討会が開催されました
- 大河原農改：令和８年度「仙南水稻栽培塾」を開催しました
- 美 里農改：松山町酒米研究会の現地検討会が開催されました。
- 美 里農改：ＪＡ新みやぎ田尻営農センター主催の大豆検討会が開催されました
- 仙 台農改：ＪＡ新みやぎあさひな水稻部会の現地検討会が行われました

⑦ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

- 大 崎農改：「ささ結」栽培現地検討会が開催されました

⑧ 地域資源の活用等による地域農業の維持・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

- 大河原農改：仙南地区生研グループが草木染研修会を行いました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

- 登 米農改：第１９回登米市畜産共進会が開催されました
- 大河原農改：第２８回仙南地域和牛共進会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営安定化・高度化支援

○令和8年度気仙沼地区農業士会総会及び研修会が開催されました

令和8年 7月 14日

気仙沼農業改良普及センター



令和8年6月23日、「令和8年度気仙沼地区農業士会総会及び研修会」が開催されました。

総会は、芳賀一充会長のあいさつ、気仙沼農業改良普及センター所長の祝辞の後、議事が進められました。議案は全て承認され、今年度も地域農業の振興及び若い担い手の育成に向けて活動していくことを確認しました。

研修会では、令和7年度農林水産祭において、むらづくり部門で天皇杯を受賞した「入谷の里山活性化協議会」の取り組みについて、同協議会の事務局長阿部忠義氏を講師にお招きし、協議会の設立の経緯から地域住民を巻き込んだ取り組み等のお話をいただきました。農業士からは、自分の地区でも同様に地域として連帯していくにはどうしたらいいかといった質問が出るなど有意義な研修となりました。

普及センターでは、引き続き地区農業士会の活動を支援していきます。

○「農産物の魅せ方・デザイン講座」を開催しました！

令和8年 7月 30日

仙台農業改良普及センター



7月17日（金）に「農産物の魅せ方・デザイン講座」を、みやぎ農業未来塾・女性農業者活躍支援事業・仙台農業士会と共催で開催し、総勢20名の農業者等が参加しました。

今回は消費者の購買意欲を刺激する売り場づくりやデザインについて学ぶため、講師2名からご講義いただきました。

講義の中では、ヴィジュアルマーチャンダイジング（VMD、視覚的な販売戦略）の基礎知識や売り場の作り方理論、農産物のネット販売に役立つSNS・ホームページの体系的な活用方法について学びました。

講義後には、1グループ10名弱で3グループに分かれ、参加者各自が農産物販売において意識・工夫していることや講義での学び等について意見交換を行い、相互交流を図りました。

参加した農業者からは「SNSやHP、売り場の陳列について、勉強になった。ほかの方のやり方も聞けて良かった。」「具体的な内容も多く、すぐに実践してみたい。」といった感想が聞かれました。

普及センターでは、今後も積極的に農業者同士の交流を進め、新規就農者の経営の安定化に向けて支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○東和町内ノ目地区で加工用トマトの現地検討会が行われました

令和8年 7月 10日

登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区では、令和8年度の農地整備事業採択に向けた取り組みが進められています。当普及センターでは令和8年度より、同地区の担い手育成支援をプロジェクト課題として位置づけ、その一環として高収益作物（加工用トマト）の栽培技術習得に向けた支援に取り組んでいます。

令和8年7月2日に加工用トマトの現地検討会が、生産者4名、カゴメ株式会社のフィールドマネージャー、普及センター3名の計8名の参加で実施されました。

各ほ場を見ながら生育の状況（昨年度の生育の違いも確認）、今後の管理について、カゴメ株式会社のフィールドマネージャーより、生育は順調であるものの、病害虫対策、除草対策、追肥作業を適期に実施するアドバイスがありました。

普及センターからは、病害虫防除における農薬の効果、農薬散布の方法についてアドバイスを行いました。

普及センターでは、今回のアドバイスが着実に実行されているか、今後の巡回を行いながら加工用トマトの生産を支援していきます。

○みやぎ農業未来塾 ～高校生に農業現場を知ってもらおう～を開催！
令和8年7月10日
登米農業改良普及センター



令和8年6月30日に、宮城県登米総合産業高等学校の農業科の生徒27人を対象にみやぎ農業未来塾を開催しました。

今回の未来塾は2部構成で実施し、第1部は農業において重要な外部要因である気象について、仙台管区气象台より講義をいただきました。

第2部は、高校生が職業の一つとして農業を考えてもらえるよう新規就農者、若手農業者（4Hクラブ員）、農業法人の代表者と4グループに分かれて就農の経緯や農業の魅力について意見交換を行いました。高校生は、気象の専門家や実際に農業者からの話を聞くことができ非常に良い経験になったようでした。

当普及センターでは、今後も新規就農者等を対象に研修会等の開催や個別巡回による支援を実施していきます。

○石巻地区4Hクラブ連絡協議会視察研修が開催されました
令和8年7月14日
石巻農業改良普及センター



石巻市と東松島市の青年農業者で構成される「石巻地区4Hクラブ連絡協議会」の視察研修が、6月30日から7月1日までの2日間にわたり開催されました。

今回の視察では、茨城県銚田市の4Hクラブ員のほ場を訪れ、ミニトマトの栽培ハウスを見学しました。同ハウスでは、JAほこたの独自ブランド「あまエル」を栽培しています。栽培管理においては、高温対策として日中のミスト散布や遮光カーテンの展開などを行い、色、ツヤ、味を重視した高品質なミニトマトとして出荷しているとの説明を受けました。

園芸産地として知られる銚田市での具体的な取り組みを学ぶことができ、大変有意義な研修となりました。

○大崎農業士会第1回研修会
令和8年7月16日
大崎農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

管内の農業士で組織する大崎農業士会では、令和8年7月14日に今年度1回目の研修会を開催しました。今回は宮城県における水稻育種の現状を学ぶため、古川農業試験場の視察を行い、作物育種部の職員から新品種育成のための交配方法や耐冷性の検定試験、水稻における最重要病害であるいもち病の検定試験などの概要について説明を受けました。

また、近年夏季の高温により、白未熟粒が発生し米の品質が低下しているため、令和8年度から高温耐性検定施設において高温に強くかつ食味の良い品種を育成していますが、その施設についても視察を行いました。

普及センターでは、今後も農業士活動に対する支

援を行っていきます。

**○大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会第45回
通常総会開催**
令和8年7月16日
大崎農業改良普及センター



令和8年6月18日に、令和8年度大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会の第45回通常総会が開催されました。

昭和57年に31グループで設立された当協議会の現在のメンバー11グループ31名で、加工実習や開放講座等を実施するなど、会員相互の研鑽を図るとともに技術伝承にも取り組んでいます。

普及センターでは、今後も地元の農産物等を活用してその価値を高めていく農産加工に取り組む農業者の支援を継続していきます。

**○東和町内ノ目地区の法人設立発起人会を対象
に、専門家による現地相談会が開催されました**
令和8年7月17日
登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区では、令和8年度の農地整備事業採択に向けた取り組みが進められています。

当普及センターでは令和8年度より、同地区の担い手育成支援をプロジェクト課題として位置づけ、担い手となる法人の設立支援等に取り組んでいます。

令和8年7月9日に県農業経営・就農支援センター所属の司法書士を講師に招き、現地相談会を開催しました。

当日は、法人設立発起人4名をはじめ、みやぎ農業振興公社、東和町土地改良区、普及センターから計8名が参加しました。

内ノ目地区の法人設立発起人会では、地域農業を支える「非営利型の一般社団法人」の設立を目指しています。今回は、自分達で作成した定款案の内容確認や、今後の具体的な設立手順について司法書士から直接指導を受けました。

司法書士からは、「一般社団法人の設立に必要な定款内容がしっかりと網羅されており、一部の文言や体裁を修正すればそのまま活用できる」と評価をいただきました。

今後、登記完了までに「農業者年金や厚生年金の各種手続き」や「一般社団法人に関わる税務」などについて、さらに専門的な検討が必要です。

普及センターでは、今後も県農業経営・就農支援センター、宮城県農業会議などと緊密に連携しながら、内ノ目地区の法人設立と、その後の安定した運営に向けて継続して支援していきます。

**○東和町内ノ目地区で農地集約化に向けた住民
説明会が開催されました**
令和8年7月17日
登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区では、令和8年度の農地整備事業採択に向けた取り組みが進められています。当普及センターでは令和8年度より、同地区の担い手育成支援をプロジェクト課題として位置づけ、地域農業をリードする担い手法人設立等の支援を行っています。

令和8年6月28日(日)に内ノ目地区内の方々に向け、農地整備事業及び地域まるっと中間管理方式による取り組み、それに伴い内ノ目地区内に設立予定の一般社団法人についての説明会が行われました。今回は6月13日に続き2回目の説明会開催となります。

内ノ目地区内の地権者と耕作者合わせて25人が参加し、法人設立発起人より法人の基本姿勢や運営に関する説明があったほか、土地改良区と普及センターからそれぞれ農地整備事業と地域まるっと中間管理方式について説明を行いました。

地域住民からは、地代や農地バンクへの切り替えについて、自作希望の場合の手続きについての質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

今後も当センターでは、関係機関と一丸となって、内ノ目地区の地域営農構想の実現に向けた支援を進めていきます。

○認定新規就農者サポートチーム巡回を行いました！
令和8年7月21日
栗原農業改良普及センター



令和8年7月8日、栗原市役所とともに、認定新規就農者サポートチーム巡回を行いました。

栗原市内でれんこん、水稻、ぶどう・りんごに取り組む青年農業者の営農状況を確認し、困りごと、課題について三者で共有しました。

暑い中、農業者の皆さんは自身が策定した計画どおりにしっかり営農されており、和やかな雰囲気です。

普及センターでは、引き続き新規就農者の支援に取り組み、地域農業の維持・発展に努めてまいります。

○令和8年度栗原市農村女性のつどいを開催しました！

令和8年7月21日

栗原農業改良普及センター



令和8年7月14日、「令和8年度栗原市農村女性のつどい」が宮城県栗原合同庁舎で開催され、栗原市生活研究グループ連絡協議会の会員34人、関係機関から7人の計41人が参加しました。

今回は、株式会社明治の「食のなるほど発見セミナー（健康サポートプログラム）」を活用し、年齢とともに変化するからだの仕組みや、筋肉・骨を健やかに保つ食生活のコツ、近年の酷暑を乗り越えるための効果的な水分補給方法をテーマに御講義いただきました。

日々の生活に取り入れやすい運動や水分補給の方法、手作りスポーツドリンクのレシピを分かりやすく学びました。

参加した栗原市生活研究グループ連絡協議会会員からは、「熱中症について知っているつもりだったが、なるほど、と思うことが結構あった」、「分かりやすい説明で、大変参考になった」、「本日の研修を参考に、家族の健康にも気を配りながら今年の夏も乗り越えたい」と好評でした。

普及センターでは、住み慣れた栗原の地でいつまでも元気にお過ごしいただけるよう、引き続き生活研究グループ連絡協議会の運営支援を通じ、笑顔あふれる農村社会の持続的な発展に努めてまいります。

○令和8年度東松島市認定農業者連絡協議会通常総会が開催されました

令和8年7月22日

石巻農業改良普及センター



令和8年7月13日に東松島市認定農業者連絡協議会通常総会が開催されました。

東松島市認定農業者連絡協議会は、認定農業者相互の交流と先進的な農業経営の確立を目指して、平成11年2月に設立され、現在、156会員となっています。

総会では、東松島市渥美巖市長からのご祝辞の後、令和7年度の事業報告及び決算、役員改選、令和8年

度の事業計画等の議案が審議され、原案のとおり可決、成立しました。

今年度の事業計画では、資質向上を図る研修会の開催のほか、関係機関との意見交換を行っていく予定です。

総会終了後、普及センターから「みやぎ農産の日」「スマート農業セミナー」「水稻の生育状況」等について、東松島市から「東松島市園芸用機械等導入支援事業」「大区画化等加速化支援事業」「熱中症対策」を情報提供しました。

認定農業者の皆様には、地域農業の中核として、その豊かな経験と高い技術を活かし、東松島市の農業を力強くけん引していただけることを期待しています。

○令和8年度仙南農業士会研修会が開催されました 令和8年7月24日 大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センター管内の農業士で構成する仙南農業士会は、7月16日に研修会及び総会を開催し、会員14名が参加しました。

研修会は、「農地整備地区における高収益作物生産」をテーマに、普及センター職員から仙南地域で取り組まれている高収益作物の栽培体系について、事例を交えながら紹介しました。その後、県の園芸流通ビジネス相談員から、露地園芸品目の流通に関する近年の動向について講義を行いました。配送業者・ドライバー等の働き方改革や燃料費の高騰により、物流コストが上昇し地産地消の注目度が増していることから、実需者に安定して供給するために生産者間での協業体制構築が重要であることが説明され、農業士からは、生産者間連携のポイント等について質問が出されるなど、実りある研修会となりました。

研修会後に行われた令和8年度総会では、退任農業士・新任農業士が紹介され、新たに任命された農業士から挨拶をいただきました。

普及センターでは、今後も農業士の栽培技術や経営管理の向上に向けた活動に対する支援を行います。

○石巻地域生活研究グループの視察研修会が開催されました 令和8年7月24日 石巻農業改良普及センター



石巻地域生活研究グループ連絡協議会は、7月21日に視察研修会「農漁村女性のつどい」を開催しました。この研修会は、会員の加工品づくりや販売方法に役立てるとともに、会員間の交流を図る目的で毎年開催しているものです。

当日は、大崎市の農業法人でミニトマトの収穫体験を行った後、美里町の農家レストランで旬の食材が用いられたランチを味わいました。久しぶりに顔を合わせた会員が近況を報告し合うとともに、食品加工技術などについて情報交換が行われました。今秋に予定している料理講習会の内容についても話が盛り上がり、楽しく充実した研修会になりました。

○女性農業者がスキルアップ活動としてリースづくりを行いました 令和8年7月27日 石巻農業改良普及センター



石巻管内の女性農業者で構成されるグループ「ベジ☆Hope」は、会員同士が様々な活動を通じて刺激し合いながら楽しく交流し、農業経営に取り組んでいます。スキルアップの一環として会員が自主的に企画し、7月21日に花育講座を行いました。

今回は季節の花束づくりを行いました。今回はドライフラワーとしても飾れるリースを題材にしました。当日は、石巻市内の生花店が講師を務め、和やかな雰囲気の中制作活動が行われました。今後も料理交流会等のスキルアップ活動を予定しています。

○石巻西高校地域探究活動に係るワークショップが開催されました 令和8年7月28日 石巻農業改良普及センター



令和8年7月7日、石巻西高校で地域探究活動に係るワークショップが開催されました。

地域探究活動は、生徒が地域社会における身近な課題を自ら発見し、情報収集や分析など通じて解決策などを提案・実行する活動で、普及センターからは、石巻管内の農業の特色や現状、課題などについて情報提供を行いました。

普及センターからの説明終了後、生徒が、石巻管内の農業を身近な課題として捉えるため、農業に対する考えについて意見交換を行いました。限られた時間ですが、普段、自分が食べているものがどのように作られているかなど、農業について考えを深める貴重な機会となりました。

③先端技術等の推進・普及による経営効率

○スマート農業・省力化に向けて！農事組合法人葉坂希望の郷で勉強会を開催しました
令和8年7月2日
大河原農業改良普及センター



平成29年に設立された柴田町の農事組合法人葉坂希望の郷は、水稻、露地野菜を中心とした経営を行っています。葉坂地区では平成30年から進められてきた農地整備事業がまもなく完了を迎えます。これに伴い、法人では大区画ほ場における、スマート農業を

活用した効率的な水稻栽培、露地野菜栽培や、経営管理を目指して取り組んでいるところです。

田植え作業が一段落した令和8年6月22日、水稻の収量向上に向けた「流し込み追肥」の実施を見据え、今後の露地野菜栽培管理や経営管理の状況確認と合わせて、同法人を対象とした「省力化技術勉強会」を開催しました。

当日、普及センターからは、稲作情報、水稻追肥の時期別効果・手法別の省力性とコストの比較（流し込み追肥とドローン追肥など）、営農支援システムによるセンシング機能の概要と活用方法、経営理念の確認などの説明を行いました。

法人の出席者からは、「良食味品種に追肥した場合の倒伏への影響」、「効果的な雑草防除の方法」、「定例会の開催方法」などについて質問・意見が出され、今後も継続して検討を重ねていくこととなりました。

普及センターでは関係機関と連携し、スマート農業や省力化技術の導入を提案しながら、同法人の効率・安定的な生産体制の確立に向け支援してまいります。

○ドローンによる可変施肥技術実演会が開催されました
令和8年7月19日
石巻農業改良普及センター



令和8年6月26日にドローンによる可変施肥技術実演会を開催しました。

石巻管内は水田の大区画整備率が64%と宮城県内では最も高くなっていますが、工事の関係で地力にバラつきがみられ、生育に影響することがあります。

そこで、画像解析技術を活用して、水稻の生育に合わせて、ドローンによる可変施肥技術による追肥の実証を行っています。

初めに、座学で農業機械メーカーと肥料メーカーから特徴について説明を受けた後、現地に移動し、実演を行いました。

参加した農家にはドローンを所有している方もおり、今後の活用について参考となったとの声が聞かれました。

今回の実演会は普及センターのプロジェクト課題として開催しました。省力化や低コスト化を実現するスマート農業技術への期待はますます高まっており、これからも支援を行っていく計画です。

○色麻町にてスマート農業技術(農業用ドローン)研修会を開催しました 令和8年7月9日 大崎農業改良普及センター



近年、農作業の省力化や効率化が課題となる中、スマート農業技術の活用が注目されています。色麻町においても、スマート農業技術のひとつである農業用ドローンの導入を検討する生産者が増えていることから、色麻町農作物病害虫防除協議会、J A加美よつば、株式会社ケーエスと共催のもと、令和8年7月2日にスマート農業技術(農業用ドローン)研修会を開催しました。地域内外の生産者及び関係機関の担当者が約80名参加しました。

第1部は、座学にて株式会社ケーエスの担当者から、農業用ドローンの定義や遵守すべき関係法令などの基本的な知識の説明、宮城県農業振興課のスマート農業コンシェルジュから県内のRTK基地局利用状況等についての情報提供がありました。

第2部は、農事組合法人下高城ふぁあむの乾田直播栽培ほ場にて、大型20Lと超大型70Lドローン2機による水を用いた散布実演を行い、それぞれの機能の特徴や散布量の違いなどを見学しました。

大崎農業改良普及センターでは、今後も農業用ドローンをはじめとする、スマート農業技術の普及を支援していきます。

④ 環境に配慮した持続可能な農業生産

○県内初！畜産分野でみどり認定証交付 令和8年7月9日 登米農業改良普及センター



令和8年5月28日、登米農業改良普及センターの板橋所長から米山町で養豚経営に取り組んでいる有限会社サトウ養豚の佐藤隆代表取締役役に、畜産分野で県内初となる「みどり認定証」が交付されました。

佐藤代表は、密閉攪拌方式コンポスト導入により、豚ふんを強制発酵して堆肥を製造する取組を計画されています。これが、温室効果ガスの排出量を削減する活動として認定されたものです。

登米管内は、かねてから環境保全型農業への意識が高く、全県の取組をけん引している地域です。

令和7年8月には、環境保全米栽培に取り組む農業者約1,400人をJ Aみやぎ登米がグループ申請し、認定を受ける事例もありました。

普及センターでは、引き続き、管内の環境負荷低減活動の取組を支援してまいります。

○「田んぼの生き物観察会」が開催されました 令和8年7月13日 気仙沼農業改良普及センター



令和8年7月6日に、新童子下集落(中山間直接支払事業)、南三陸米地産地消推進協議会の共催により「田んぼの生き物観察会」が開催されました。

この取り組みは水田やその周辺で生息している生き物の様子を観察し、稲が生育する様子と生き物の関係を考えるほか、地域で生産されるお米の安全性、環境保全の大切さを地元の子供たちに実感してもらうことを目的に開催されており、南三陸町立入谷小学校の児童25名が参加しました。

当日は、ナマズのガッコウ 事務局長である三塚牧夫氏を講師として、田んぼの生き物の観察について説明を受けたのち、田んぼで観察会を行いました。

子供たちは、アカハライモリやカエルなど田んぼ

に生息している生き物を捕まえて、歓声を上げていました。その後、つかまえた生き物について三塚先生から説明を受け、目を輝かせて質問していました。

普及センターとしては、農業・農村振興部内で連携しながら、今後とも活動を支援してまいります。

⑤園芸産地の育成・強化支援

○「もっこりにら」現地検討会が開催されました 令和8年7月3日 登米農業改良普及センター



令和8年6月22日、にらの現地検討会が開催され、J Aみやぎ登米にら部会員6名が参加しました。

今後は気温が上がり、高温障害や病害虫の発生が増加することが予想されるため、普及センターから、高温対策や、防除方法について重点的に説明しました。にらは適用のある農薬が他の野菜に比べ少ないため、R A Cコードの重複を避けてローテーション散布を行うよう、適用のある農薬の一覧表を作成・配布して解説しました。

今後も、適切な栽培管理についての指導を継続して行い、「もっこりにら」の安定生産、ブランド力向上に向けて支援してまいります。

なお、「もっこりにら」は道の駅みなみかた「もっこりの里」(<https://mokkorinosato1.wixsite.com/website>)などで購入できます。

○J Aいしのまき長葱部会現地検討会が行われました 令和8年7月3日 石巻農業改良普及センター



令和8年6月23日にJ Aいしのまき長葱部会の現地検討会が行われました。

管内では矢本地区を中心に、栽培は難しいものの市場ニーズが高い夏ねぎが生産されています。3か所のほ場の生育状況を確認後、J Aいしのまき矢本支店会議室で総合検討を行いました。

現時点の生育は、干ばつによる生育停滞に苦労した昨年同時期とは異なり、降雨により土壌水分が補給されているため、全般的に順調と確認されました。生育が良好なほ場の観察結果から、今年の夏ねぎの出荷開始は7月10日前後と見込まれています。

○J A新みやぎあさひなねぎ部会栽培講習会及び現地検討会が開催されました！ 令和8年7月3日 仙台農業改良普及センター



令和8年6月25日にJ A新みやぎあさひな統括営農センター主催のねぎの栽培講習会及び現地検討会が開催され、ねぎ部会員13名が参加しました。

講師に、(株)渡辺採種場 瀬峰研究農場の研究員を迎え、「梅雨から夏にかけての栽培管理のポイント」をテーマに、べと病、さび病の病害防除や排水対策、高温期の管理の注意点などについて学びました。

現地検討会では、大和町の部会員2人のほ場を巡回し、ねぎの生育や病害虫の発生の状況を確認しました。

また、秋冬ねぎの今後の管理では、7月上旬までに葉数5枚を確保し、夏季高温時には葉数を維持できるように、除草及び病害虫管理を徹底することについて確認しました。

普及センターでは、J A新みやぎあさひなねぎ部会の若手生産者育成に向けて、栽培技術の向上やネットワークづくりを重点的に支援し、産地の活性化に取り組んでいきます。

○ぶどう摘粒講習会～JA新みやぎあさひなぶ
う部会～
令和8年7月6日
仙台農業改良普及センター



令和8年7月2日(木)、JA新みやぎあさひなぶ
う部会員を対象に、摘粒講習会が開催されました。
前回(5月)の無種子化講習会に続いて開催されたも
のです。

講習会当日は、部会員12人、JA担当職員が出席
し、ぶどうの摘粒を中心に、現地ほ場で摘粒、袋かけ
等、普及センター職員が実技を交えながら講習を行
いました。また、農薬危害防止や農作業における熱中
症対策についても講習を行いました。

摘粒は、ぶどうの管理で最も手間のかかる作業で、
房型の善しあしを左右することから、ポイントを置
いて説明を行いました。併せて、果実袋の色による効
果の違いや収穫時期の調整について説明しました。

参加者からは、内向き粒の摘粒や副梢の摘心方法
等について質問が出されるなど、活発な意見交換が
行われました。

普及センターでは、引き続き、ぶどう栽培技術向上
に向けた取り組みを支援していきます。

○角田市で宮城県なし現地検討会が開催されまし
た
令和8年7月8日
大河原農業改良普及センター



令和8年7月1日、角田市内で宮城県園芸協会主催
の「宮城県なし現地検討会」が開催され、県内のなし
生産者39人が参加しました。

午前は、角田市の生産者2人の園地を巡回し、生育
状況の確認や生産者同士での活発な意見交換が行わ
れました。普及センターからは、参加者の質問に対し
て随時アドバイスや回答を行いました。午後は、農研
機構と農業・園芸総合研究所による講演や情報提供
が行われ、新しい日本なし品種「蒼月(そうげつ)」
について詳しくお話を聞くことができました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、なし
栽培技術の支援を行ってまいります。

○亘理・山元いちご新規就農者向け「いちごの部
屋」を開催しました！
令和8年7月9日
亘理農業改良普及センター



亘理・山元地域では、いちご栽培で他地域から就農
する人が多くなっています。

普及センターでは、地縁のない新規就農者が、いち
ごの技術研鑽や情報交換を相互に行う場として、「い
ちごの部屋」を開設しました。

5月29日(金)に山元町、6月30日(火)に亘理
町でそれぞれ開催し、前半の相互の自己紹介「就農に

至ったいきさつ」では、参加者全員が他分野からの転職による就農と分かり、お互いが同じ決意と覚悟をもって就農した仲間として話せたようです。

後半には、先輩いちご生産者のほ場に移動し、本ほハウスや育苗ハウスを見せてもらいながら、質疑応答を行い、実地に学びました。

閉会後も参加者のみなさんは、一緒に近隣ハウスを見に行くなどしており、「いちごの部屋」をきっかけに、相互の交流をさらに深め、各自の技術研鑽に役立ててほしいと願っています。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、いちご新規就農者が安定した生産・経営が行えるように支援していきます。

○若手りんご生産者現地検討会を開催しました

令和8年7月13日

亘理農業改良普及センター



令和8年7月7日（火）に、亘理・名取地域の若手りんご生産者を対象に、植栽後1～2年目のほ場3か所を巡回する現地検討会を開催し、10人が参加しました。

参加者は、生育状況を見ながら、若木の枝の切り方（せん定）や、枝を育てたい方向へ固定する作業（誘引）について熱心に意見を交わし、これからの栽培の参考にしていました。どのほ場も手入れが行き届いており、数年後には赤や黄色など、色も味も個性豊かなおいしいりんごが収穫できるのが今から楽しみです。

普及センターからは、りんごを植える際の支援事業を紹介したほか、これからの時期に注意が必要となる農作業中の熱中症対策を呼びかけました。今後も地域の若手りんご生産者がいきいきと活動できるよう、継続して支援を行っていきます。

○令和8年度第2回南三陸ぶどう栽培研修会を開催しました

令和8年7月13日

気仙沼農業改良普及センター



令和8年6月26日に、南三陸町入谷地区にて第2回南三陸ぶどう栽培研修会を開催し、南三陸大粒ぶどう協議会生産者のほかJA職員、南三陸町職員を含め、計14名が参加しました。

今回の研修会では、普及指導員が講師となり、気象経過とぶどうの生育状況について情報提供を行い、摘粒や袋掛けといった今後の栽培管理について説明を行いました。また、省力化技術の紹介として、「らくらくカップ2」の実演とアシストスーツを装着した状態での摘粒の実演を行いました。

らくらくカップ2については、特に2回目のジベレリン処理の省力化が期待できそうとの感想が聞かれました。アシストスーツについては、摘粒等の長時間腕を上げた状態の作業において省力化が見込めそうとのことでした。研修会終了後は参加者同士で活発な意見交換が行われる等有意義な研修会となりました。

普及センターでは今後も「しおかぜ葡萄」の高品質・安定生産に向け支援を続けてまいります。

○古川なすの現地検討会と中間実績検討会が開催されました

令和8年7月17日

大崎農業改良普及センター





大崎農業改良普及センターでは、プロジェクト課題「古川なすの安定生産に向けた技術の更新と部会活動の活性化」において、JA古川なす部会の活動支援を行っています。

令和8年7月10日（金）、部会員のハウスにおいて、今年度第2回の「ハウスなす現地検討会」が開催され、部会員18名及び関係機関11名が参加しました。現地検討会では、タキイ種苗から部会の主要栽培品種の一つである「PC鶴丸」の今後の栽培管理のポイントについて、普及センターから病害虫防除について説明を行い、生産者は熱心に耳を傾けていました。

また、7月14日（火）には、古川市内の「RESTAURANT & BAR 雅籠（ガロオー）」において、出荷の中間実績検討会が開催され、部会員12名及び関係機関21名が参加しました。実績検討会では、市場関係者からなすの出荷状況や販売情勢等についての情報提供、JA古川から古川なすの出荷状況についての報告が行われました。

今シーズンは、4月下旬の出荷開始から6月上旬までは前年を上回る出荷量でしたが、6月中旬～下旬は天候不良（寡日照、夜間の低温）の影響により、出荷量が前年対比80%以下に落ち込んでいました。しかし、7月に入り出荷量は回復傾向にあります。これから7月下旬～8月上旬の出荷最盛期に向け、高品質な古川なすの安定出荷が行われるよう、部会員の意識統一が図られていました。

現在、大崎市古川の飲食店「とことん亭」と「RESTAURANT & BAR 雅籠」で古川なすを使ったメニューやお弁当を提供しているほか、東北エリアのセブンイレブンでは古川なすのカップデリ（惣菜）が販売されています。また、8月9日（日）16:30～放送のkHb 東日本放送「サンデーチャージ」において、部会長の圃場から生中継で古川なすの紹介が行われますので、ぜひ視聴ください！

○トマトの高温対策及び病害虫防除に関する情報交換会を開催しました
令和8年7月17日
石巻農業改良普及センター



令和8年6月24日に石巻農業改良普及センターのプロジェクト課題「トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築」の一環として、課題対象の生産者と、普及センター、農業・園芸総合研究所、JAいしのみきの関係職員が抑制栽培に向けて考えるべき高温対策と、令和8年の促成栽培におけるタバココナジラミの発生推移と防除対策について、情報交換を行いました。

高温対策では、高温期の着果促進対策としてのハウス内加湿など、防除対策では、農薬防除に加え、0.4ミリ目合い防虫ネットや天敵の活用などが協議され、生産者と試験研究機関の研究員が対面で情報交換する有意義な機会となりました。

○栗原市内でズッキーニ抑制栽培講習会が開催されました！
令和8年7月23日
栗原農業改良普及センター



令和8年7月17日、ズッキーニ抑制栽培講習会がJA新みやぎ志波姫営農センターで開催され、JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会員12人、関係機関から5人の計17人が参加しました。

今回は、抑制栽培の育苗管理、注意する病害虫につ

いて種苗会社と普及センターから講習を行い、全農みやぎ園芸販売課から春作の出荷実績等について説明がありました。

参加者は、前作の出来ばえや抑制栽培のポイントを改めて確認していました。

普及センターでは、県内ブッキーニ産地の要である栗原地域の生産者への情報提供など継続的な支援を行い、園芸産地の育成・強化支援に努めてまいります。

○令和8年度加美郡りんご協議会現地検討会 令和8年7月27日 大崎農業改良普及センター



加美郡内のりんご生産者14名で組織する加美郡りんご協議会は、毎年研修会や先進地視察などの調査・研究活動を精力的に行っています。令和8年7月16日には、これら活動の一環として、参加者の園地を巡回し夏期管理状況の確認を行う現地検討会を開催しました。

今年度は参加者の1園地で新規に登録となった摘果剤の展示試験を実施しており、その結果について検討するとともに参加者全員の園地を巡回し、摘果状況や新梢管理、病害虫の発生状況などの確認を行いました。

また、宮城県では、毎年、農薬の使用機会が多くなる6月から8月までの3か月間を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の適正使用についての呼びかけを行っているため、農薬の安全使用についての確認も行いました。

当センターでは、今後も会員の技術向上のため、協議会活動の支援を行っていきます。

○トルコギキョウ現地検討会開催～JA仙台トルコギキョウ生産組合～ 令和8年7月28日 仙台農業改良普及センター



令和8年7月23日(木)、JA仙台トルコギキョウ生産組合が現地検討会を開催しました。

生産者13人とJA担当職員、普及センターが出席し、5か所のほ場を巡回しながら、生育状況を確認し、今後の管理について検討しました。

今年は全体的に生育が遅れていますが、目立った病害虫の発生は認められませんでした。普及センターからは、開花前にアザミウマの防除を実施するよう助言を行い、その後、それぞれのほ場ごとの肥培管理について、活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、引き続き、トルコギキョウの生産技術向上に向けた取り組みを支援していきます。

○JA仙台根白石果樹生産組合りんご現地検討会 令和8年7月28日 仙台農業改良普及センター



令和8年7月24日(金)、JA仙台根白石果樹生産組合りんご現地検討会が開催されました。

当日は参加者の園地を巡回しながら、りんごの生育や栽培管理及び病害虫の発生状況等の確認を行いました。

普及センターからはこれまでの天気の推移や今後の栽培管理の留意点、病害虫防除のポイント等の説明を行いました。

参加者からは、褐斑病対策や落果防止剤の使用方法に関する事等の質問や意見交換が行われ、今後の栽培管理に役立つ検討会となりました。

組合員が生産したりんごは、JA直売所や近隣スーパーの産直コーナー等で販売されています。

普及センターでは、りんご栽培技術向上への取り組みを継続的に支援しています。

○オリーブ巡回指導が実施されました 令和8年7月28日 石巻農業改良普及センター



令和8年6月24日、石巻市役所と普及センターによるオリーブ生産者の巡回指導が実施されました。
当日は、河北地区と雄勝地区の生産者2法人を巡回しました。今年は、3月から5月にかけての気象は、気温が平年より高めに推移し、降水量は平年並からやや少ない傾向でしたが、生育は順調です。
河北地区では、開花期は6月16日頃で、満開期を過ぎている状況でした。雄勝地区は、河北地区に比べて約1週間程度遅く、満開期を迎えていました。
両地区とも、このまま順調に生育すれば、10月には収穫期を迎え、オリーブの搾油作業が開始される予定です。

○「令和8年産いちご出荷反省会」が開催されました

令和8年7月30日
亘理農業改良普及センター



令和8年7月10日、「J A仙台いちご部会」による「令和8年産いちご出荷反省会」が、51名の生産者、出荷先の市場関係者、J A等関係機関らが出席し、盛大に開催されました。

令和8年産のいちご生産は、育苗期から高温の影響があり、年内の出荷はやや不足したものの、年明け2月以降はまとまった量が出荷され、4月までは昨年よりやや上回る量が出荷されました。5月、6月には病害虫、台風等の影響から昨年の量に届かず、最終的には目標の96%の出荷量となりました。販売額は、昨年の販売額を超えることができなかったものの、34億円を超え、2年連続で震災前の販売額を超えました。反省会では関係機関と令和8年産の実績を検討し、次年度の高温対策や、病害虫防除対策を普及センターとともに確認しました。

会場では若い後継者や、ベテランの生産者も含め、多くの生産者が出席し、作付けの苦労を分かち合い、生産者、関係機関一体となって次の作付けに向けた

意欲を高めることができました。

普及センターは引き続き、いちごに関する支援を続けてまいります。

⑥収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○第1回直播栽培研究会現地検討会が開催されました

令和8年7月3日
大崎農業改良普及センター



J A加美よつばでは、稲作における低コスト化、省力化と水稻直播技術の向上を目指し、第1回直播栽培技術研究会現地検討会が令和8年6月30日に開催されました。

これまでJ A加美よつば管内では湛水直播栽培が多かったが、近年、乾田直播栽培に取り組む動きがあり、今回の現地検討会では乾田直播2ほ場、湛水直播3ほ場の栽培状況を確認し、その後、総合検討を行いました。

現地ほ場では、水稻直播研究会からの出席もあり、研究会と普及センターから栽培管理や今後の対応等については場毎にコメントを行いました。

普及センターでは、今後も水稻直播栽培技術の向上を目指し支援を行っていきます。

○令和8年度「仙南水稻栽培塾」を開催しました

令和8年7月23日
大河原農業改良普及センター





良質なみやぎ米の生産に向けて、7月15日（水）にＪＡみやぎ仙南村田地区事業本部を会場に、仙南水稻栽培塾を開催し、生産者や関係団体など約40人が参加しました。

講義では、普及センターから気象経過や水稻の生育状況、今後の管理を説明しました。今年も7～8月の高温が予想されていることから、追肥や飽水管理など高温対策や、大河原管内で発生量が増えているクモヘリカメムシの対策を指導しました。

講義の最後には、省力化技術である直播栽培を取り上げ、湛水直播・乾田直播の特徴とメリット、管内の直播栽培の生育状況などを紹介しました。

その後、村田町の農事組合法人 Nature の乾田直播ほ場に移動し、3月中に播種した乾田直播の「ひとめぼれ」と「にじのきらめき」を見学しました。農事組合法人 Nature の職員からは、乾田直播による作業時期の分散や稲の特徴、取り組んでみた感想などを紹介いただきました。

参加した生産者や関係団体からは、乾田直播と移植との収量、品質、食味の違いや、播種床づくりの作業工程などの質問があり、Nature の職員や普及指導員と情報交換する場面が見られました。

大河原普及センターでは、引き続き良質なみやぎ米の生産を支援していくとともに、管内でも取り組みが増えつつある乾田直播栽培の普及拡大に向けて、先進的に取り組む農業者をサポートしていきます。

○松山町酒米研究会の現地検討会が開催されました

令和8年7月 27日

美里農業改良普及センター



令和8年7月9日（木）松山町酒米研究会主催で、今後の管理に向けた現地検討会が開催されました。当日は会員集まり、酒米の「吟のいろは」「蔵の華」「トヨニシキ」の作付けほ場8か所を回り、ほ場ごとに葉色、茎数、幼穂長を測定し、出穂予測や追肥について検討を行いました。

現地検討後には普及センターから品種ごとの追肥方法などを説明したほか、幼穂形成期を迎えているほ場もあったことから、中干を終了する時期となっていることなど、栽培のポイントを助言しました。

会員の皆さんは、ほ場の生育ステージが確認できたことから、追肥に向け準備に取り掛かると話されていました。

普及センターでは今後も酒米の品質向上や、収量アップに向け支援を行っていきます

○ＪＡ新みやぎ田尻営農センター主催の大豆検討会が開催されました

令和8年7月 27日

美里農業改良普及センター



令和8年7月17日（金）ＪＡ新みやぎ田尻営農センター管内の大豆生産者を参集し、検討会が開催されました。

初めの座学では播種直後の6月21日に降った大

雨により、浸冠水したほ場もあったことから、改めて排水対策を徹底するよう説明を行いました。また、浸冠水したほ場では、条件が整えば早期に中耕培土を行うなど、今後の管理について説明を行いました。現地検討では雑草の発生状況や大豆の生育ステージを踏まえた除草剤散布、中耕培土と合わせた追肥など、今後の管理のポイントを説明しました。

生産者の皆さんは明きよなど排水対策が講じられたほ場を確認し、改めて基本技術の大切さを実感されていました。

普及センターでは今後も大豆の生産振興に向け、支援を行っていきます。

○JA新みやぎあさひな水稻部会の現地検討会が行われました

令和8年7月28日

仙台農業改良普及センター



7月16日にJA新みやぎあさひな水稻部会の現地検討会が開催され、部会員をはじめ関係者28人が参加しました。

普及センターからは、現在の水稲の生育状況や気象経過を踏まえた今後の栽培管理について説明しました。特に7月下旬から8月上旬にかけて出穂期を迎えるほ場が多いと予想されることから、生育ステージや天候に応じた適切な水管理、高温時に発生が多くなる紋枯病や斑点カメムシ類の適期防除など、品質・収量の確保に向けた対応や、熱中症対策について呼びかけを行いました。

現地検討では、JAが設置している栽培試験ほ場へ移動し、各品種の特性や生育状況などを確認しました。参加者からは品種特性に基づく収量性や品質、追肥判断など多くの質問が出され、活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携し、高品質・良食味米の安定生産に向けた支援を行ってまいります。

⑦時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

○「ささ結」栽培現地検討会が開催されました

令和8年7月17日

大崎農業改良普及センター



大崎の米「ささ結」ブランドコンソーシアムでは、ササニシキ系の品種「東北194号」を活用し、食味の基準を設けた新たなブランド米「ささ結」の生産・流通・加工・販売が一体となったブランド化の推進と環境への配慮等に取り組み、今年で10年目となります。

令和8年7月13日、ささ結の品質や食味の安定確保、環境に配慮した生産（栽培方法、田んぼの生きものモニタリング）等を確認するために現地検討会が開催され、ささ結栽培者24名の参加がありました。

検討会では、古川農業試験場から「ささ結」とササニシキ・ひとめぼれ等との品種特性の違い、普及センターからは令和8年産米の生育状況、大崎市からは田んぼの生きものモニタリングの方法、生産者からはこれまでの栽培経過を踏まえての今年の取組など説明がありました。

普及センターでは、「ささ結」のブランド化に向け、生産者やコンソーシアムの取組を支援してまいります。

⑧地域資源の活用等による地域農業の維持

○仙南地区生研グループが草木染研修会を行いました

令和8年7月29日

大河原農業改良普及センター





仙南地区生活研究グループ連絡協議会は、令和8年7月22日（水）にグループ員12名を対象に草木染の研修会を行いました。

研修会では、蔵王町で「アトリエ 蔦風庵」を主宰している島田ひろみ氏を講師として、「地域資源を活かした草木染」と題し、よもぎの染液と3種類の媒染剤を用いたストールの草木染をワークショップ形式で体験しました。

今回、同じ染液でも媒染剤の違いにより、淡いグリーン、オレンジ、グレーがかったグリーンと、異なった発色となることを確認しました。

参加者からは「同じ材料を用いて、同じ工程で作業しても一つ一つ違う出来栄えとなった」、「初めてだったが楽しくできた」、「洗う際、しぼり模様の輪ゴムを外す作業に苦労した」等の感想が聞かれ、身近な素材を活かした商品づくりに対する理解を深める場となりました。

普及センターでは、今後も地域資源を活用した商品づくりに対する生活研究グループの活動を支援していきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①その他

○第19回登米市畜産共進会が開催されました
令和8年7月10日
登米農業改良普及センター



令和8年7月3日、登米市南方畜産物集出荷場において「第19回登米市畜産共進会」が開催されました。

この畜産共進会では、登米市内で生産された牛37頭が月齢別に全4部門に出品され、その発育や改良の度合い（体の深さや伸びなど）を競いました。

また、特別区として登米総合産業高校の牛も出品され、日ごろの活動報告についての発表もありました。

なお、上位入賞牛は、登米地域の代表として9月に開催される「宮城県総合畜産共進会（肉牛の部）」（9月4日～5日開催）への出品を予定しており、上位入賞が期待されています。

○第28回仙南地域和牛共進会が開催されました
令和8年7月16日
大河原農業改良普及センター



令和8年7月3日に、仙南地域畜産振興協議会主催の仙南地域和牛共進会が開催されました。4つの出品区に対し、管内から黒毛和種雌牛18頭が出品され、最優秀賞獲得を目指し競い合いました。

体尺測定による発育を調査し、月齢に応じた発育をしているかを評価するとともに、触診による栄養度判定を行い、太り過ぎていないかを確認しました。その後、全国農業協同組合連合会宮城県本部の審査委員3名が黒毛和種牛審査標準に基づき、体の幅や張り、バランス、体と骨のしまり及び雌牛らしさ等に

ついて審査を行いました。

審査序列の結果により、第 1 区（若雌の 1）及び第 2 区（若雌の 2）から 5 頭、第 4 区（高等登録群）から 2 頭が 9 月に開催される県の総合畜産共進会への出品が決定しました。

今後、集合指導会を行い、栄養度の管理、ボディラインの鮮明さやバランスを注視し、県の共進会での上位入賞を目指します。これからは、暑熱の厳しい時期ですので、出品牛も人も体調を壊さないことを意識しながら、県の共進会で仙南和牛の改良の成果を披露できるよう関係者と連携し出品対策に取り組めます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>

〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>

〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>

〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>

〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>

〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>

〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>

〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.234

発行日:2026 年8月 26 日

発 行:宮城県農政部農業振興課

編 集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp